

仙小教研 理科部会の研究方式について

○ 授業研究こそ最高の研修

— 「授業研究」こそ、教員の最高の研修の場である。— 私たちはそのような思いで、授業研究に最も重点を置いて研究を進めている。昨今は、校内研究として理科を取り上げる学校が非常に少ない。理科の授業実践を積み重ねていても、他の教員の授業を参観する機会がほとんどない現状である。仙小教研の授業研究会は教員同士の学習の場として絶好の機会である。生の授業に漂う緊張感、教師と子供が教材を通して四つに組み合う真剣な姿、実験を見つめる子供の目の輝きと素直なつぶやき…。そんな研究授業の場に身を置くことでこそ、私たちは自らの授業を真摯に振り返ると共に、授業の見方を学ぶことができると考える。

○ 年8回の自主的な授業研究の実施

理科研究部会では、全部員が3～6年生のいずれかの学年部会に所属している。(基本的には自分の担当学年に所属するが、低学年の担任及び担任外は希望学年に所属する。)

1月と2月の仙台市教育研究会の日には、このすべての学年部会で提案授業が実施されている。つまり、毎年8こまの授業研究が実施されていることになる。

授業者の選定は部員からの自主的な申し出を基本としている。仙台市教育研究会の中でも、部員が自主的に提案授業を引き受けることで授業研究を進めている部会は、少ないと言えるだろう。

○ 参加者が作る提案授業

提案授業を実施する前の指導案検討会には各学年部に所属している部員のほとんどが参加し、真剣に意見を交換する姿が見られる。これは、前述したように学年部会に集まる部員の多くが同じ学年を担当しているために、授業者の提案内容を他人事としてとらえていないためである。中には、研究授業前に自分の学級で提案内容を実践し、授業者にアドバイスをする部員も見かけられるようになった。授業者の提案を優先する姿勢を持ち、最大限に授業者をサポートする姿勢がこのような場面でも見られるようになってきている。

○ 授業づくりの共同責任者としての「授業研究部」

自主的に提案授業を引き受けた部員を中心になって支えるのが授業研究部である。授業研究部に所属している部員の多くが、自らも各研究大会や自主公開などで授業公開を経験している。そのため授業者の思いを共感的に受け止めることができると共に、その苦労も理解できる。授業研究部の部員は、授業づくりの共同責任者として、単元の選定や教材研究、教材づくり等にも積極的にかかわり、授業者を支えていく。

以上のように、部員が主体的に学び合う仙台市教育研究会理科部会の研究組織自体が大きな研究成果の一つと言える。若い教員も増えつつある現在、今後もこのような研究体制を維持することが私たちの務めであり、理科好きの子どもを育てていくのに役立っていくものと考えている。